

【仙台医療センター跡地における県有施設再編】
メリット・デメリットの整理及び
施設整備に向けた県の方針(案)について



1. 比較検討する施設整備の方向性

方向性の
パターン

A案：美術館・県民会館・NPOプラザを**移転集約**
 B案：美術館は**現地改修（増築）** + 県民会館・NPOプラザは移転集約
 + 「文化的視点」と「行政経営的視点」の両立の観点から、新たな方向性（C案）を**追加**
 C案：美術館は**現地改修（増築なし）** + 県民会館・NPOプラザは移転集約

	A案:集約・複合化	B案:美術館 増築	C案:美術館 増築なし
仙台医療センター跡地（宮城野原）			
美術館現在地（川内）			
考え方など	<ul style="list-style-type: none"> ▽ 移転先でも美術館リニューアル基本方針の機能を実現 ▽ 県民会館とNPOプラザは、各案で主な機能の差は生じない。 ▽ 集約施設(新設)は、諸室を共有化することにより、運営の効率化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ▽ 美術館リニューアル基本方針に基づき整備 	<ul style="list-style-type: none"> ▽ 増築はせずに、美術館リニューアル基本方針を尊重の上、整備内容を見直し ▽ 同左

追加
+



2. ライフサイクルコスト

メリット・デメリット分析の視点

☞ 美術館の整備手法によるライフサイクルコスト(イニシャルコスト, 整備後30年間のランニングコスト及び大規模修繕費等)を比較。〔大規模修繕等は15年後に設備更改, 30年後に大規模改修を想定〕
 (単位: 億円/税込)

	A案 (集約・複合化)	B案 (美術館増築)	C案 (美術館増築なし)	
事業費 (一般事業債(地方単独事業) の活用を想定)	イニシャルコスト ¹⁾ 〔うち, 美術館改修費 美術品移転・保管費〕	330	320 〔60 7〕	290 〔30 7〕
	ランニングコスト ²⁾	250	300	280
	大規模修繕費等	200	220	200
1)イニシャルコスト 工事費, 調査費, 設計・監理費, 美術品移転・保管費等	30年間負担額①	780	840	770
2)ランニングコスト 維持管理費, 運営費(人件費, 事業 費等)等	(単年度の平均)	(@26)	(@28)	(@26)
公共施設等適正管理推進事 業債(集約化・複合化事業, 長寿 命化事業)を活用した場合	30年間負担額②	650	830	760
	(単年度の平均)	(@22)	(@27)	(@25)

※上記の試算は, 比較検証のために一定の条件を設定して行ったものであり, 実際の事業費とは異なる場合がある。

メリット・デメリット分析のまとめ

- ・事業費総額(30年間負担額①)については, **C案が最も優位**である。B案は全てにおいて割高となる可能性が高い。
- ・公共施設等適正管理推進事業債を活用する場合, **A案が実質的な財政負担(30年間負担額②)**が最も小さいが, 活用条件として, 現美術館の除却(機能転用, 譲渡, 撤去)が必要となる。



3. 県の施設整備方針(案)

美術館は、現地改修（増築なし）

県民会館・NPOプラザは、移転集約

「C案」 を基本として今後の検討を進める。



4. 県民説明会の開催について

日時：令和2年11月28日(土) 午後1時30分から

場所：宮城県行政庁舎 2階講堂

定員：200名(先着順)

申込方法：みやぎ電子申請システムによる

※ 詳細は、震災復興政策課HPを参照ください

